

岡山県感染症週報 2013 年 第 43 週 (10 月 21 日～ 10 月 27 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 43 週 (10/21～ 10/27) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 41 週	2 類感染症	結核	5 名 (60 代 男 1 名・女 2 名、70 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
	5 類感染症	アメーバ赤痢	1 名 (50 代 男)
第 42 週	2 類感染症	結核	2 名 (20 代 男 1 名、40 代 男 1 名)
	5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	1 名 (10 代 男)
第 43 週	2 類感染症	結核	3 名 (60 代 女 2 名、80 代 男 1 名)
	3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	2 名 (O157 : 20 代 女 1 名、30 代 女 1 名)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群	1 名 (20 代 女)

■定点把握感染症発生状況

- RS ウイルス感染症は、県全体で 38 名 (定点あたり 0.39 → 0.70 人) の報告があり、前週より増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.30 → 0.65 人) の報告があり、前週より増加しました。
- 手足口病は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.94 → 0.65 人) の報告があり、前週より減少しました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 43 週に 2 名の発生報告がありました。岡山県のこれまでの報告累計は 73 名となり、第 39 週から 5 週連続の発生となっていますので、ひきつづき注意してください。県では、7 月 10 日に「腸管出血性大腸菌感染症注意報」を発令し、注意喚起を図っています。手洗い等を徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
2. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 38 名 (定点あたり 0.39 → 0.70 人) の報告があり、前週より増加しました。詳しくは『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.30 → 0.65 人) の報告があり、前週より増加しました。地域別では、岡山市 (0.64 → 1.93 人) で大きく増加しています。過去のデータによると、冬季および春から初夏にかけて報告数のピークが認められており、今後患者数が増加する恐れがありますので、県内の発生状況に注意し、手洗い・うがい等の感染予防に努めましょう。
4. **手足口病**は、県全体で 35 名 (定点あたり 0.94 → 0.65 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、岡山市及び備中地域 (1.29 人)、倉敷市 (0.45 人) の順で定点あたり患者数が多くなっています。県全体としての報告数は減少していますが、患者の発生は続いていますので、ひきつづき、手洗い・うがいなどの感染予防に努めましょう。
5. **風しん**は、第 43 週の発生報告はありませんでした。岡山県のこれまでの報告累計は 74 名となっています。全国の第 42 週までの累計報告数は、14,201 名で、第 33 週以降は 1 週間の発生報告数が昨年同時期を下まわっているものの、依然、患者の発生が続いています。妊婦が風しんにかかり胎児に障がいが発生する**先天性風しん症候群 (CRS)**は、2013 年の 10 月 9 日までの累計は 16 名となっています。

[\(先天性風しん症候群 \(CRS\) の報告 \(2013 年 10 月 9 日現在\) \(国立感染症研究所\)\)](#)

【お知らせ】

11 月に入り、インフルエンザの発生が懸念される時期になりました。次週 (第 44 週) から、岡山県感染症週報及び岡山県感染症情報センターホームページに、『インフルエンザ情報』の掲載を開始いたします。「地区別発生状況」「ウイルス検出状況」「学校等の臨時休業施設数」「入院サーベイランス」など、県内の発生状況をお知らせします。

また、岡山県感染症情報メールマガジンでは、発生状況の概要を掲載するとともに、インフルエンザ注意報・警報発令時には臨時号を発行し、より早く情報をお届けします。

『インフルエンザ情報』をインフルエンザの予防と感染拡大防止にお役立てください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎		★	無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★	クラミジア肺炎		★
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—			

【記号の説明】 前週からの推移:

: 2 倍以上の減少

: 1.1~2 倍未満の減少

: 1.1 未満の増減

: 1.1~2 倍未満の増加

: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし

★: 僅か

★★: 少し

★★★: やや多い

★★★★: 多い

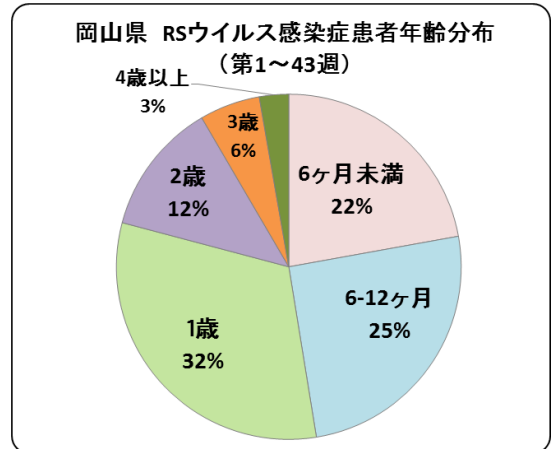
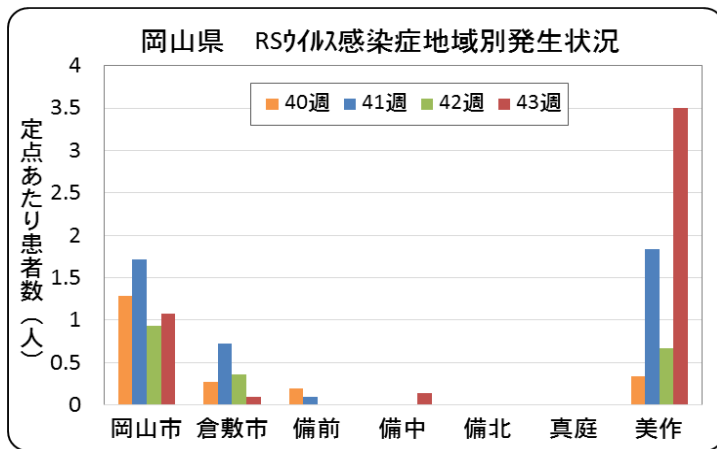
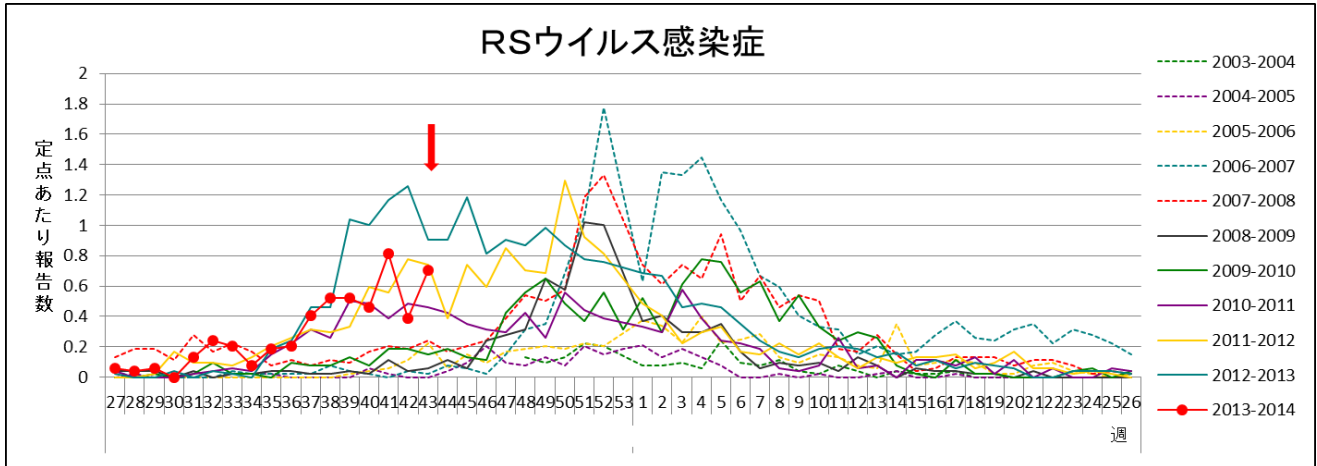
★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

今週の注目感染症

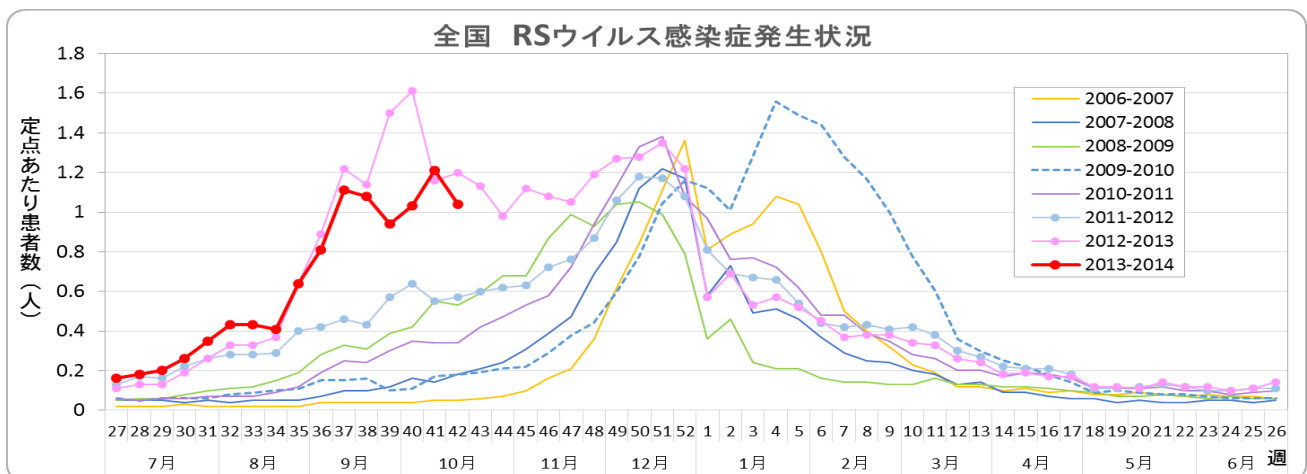
1. RSウイルス感染症

岡山県の発生状況グラフ



RSウイルス感染症は、第43週には県全体で38名（定点あたり0.39→0.70人）の報告があり、前週より増加しました。10月以降は増減を繰り返しながら推移しています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後さらに患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき発生状況に注意してください。地域別では、美作地域（3.50人）、岡山市（1.07人）、備中地域（0.14人）の順で、定点あたり報告数が多くなっており、美作地域で大きく増加しました。年齢別では、6ヶ月未満 22%、6-12ヶ月 25%、1歳 32%と、1歳以下の乳児が79%を占めています。

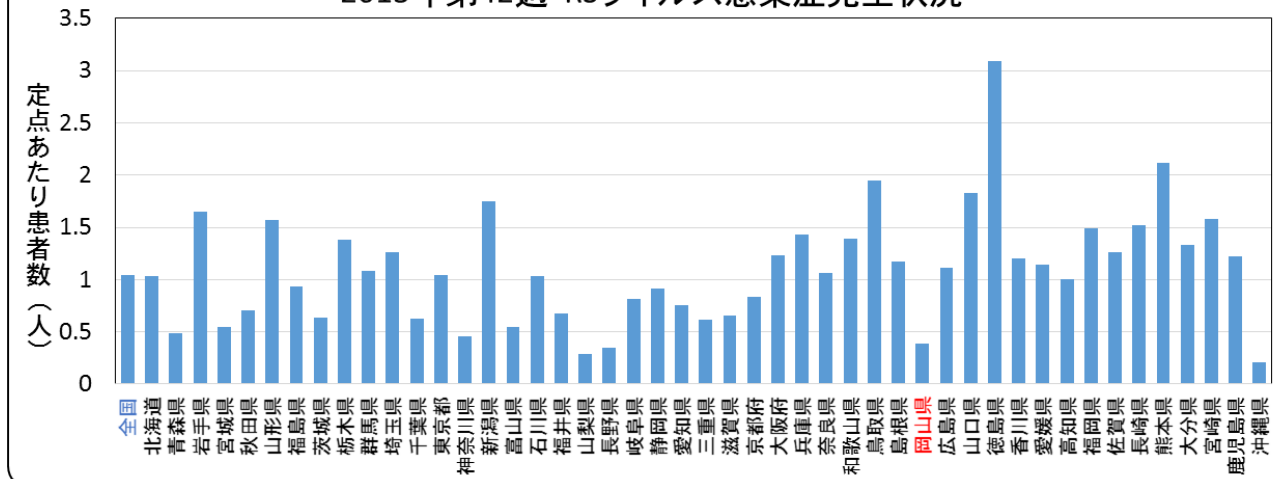
【全国のRSウイルス感染症発生状況】



全国の第42週までの発生状況を見ると、2012年と同様の早い立ち上がりとなったあとは、第37週頃からは増減をしながら横ばいで推移しています。RSウイルス感染症の報告数は、2011年頃からは、それ以前に比べて早い時期から、多くの患者が報告されるようになってきています。RSウイルス感染症は、大人では軽い風邪のような症状で軽快しますが、乳幼児などでは、重症化して肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こすことがあるため、乳幼児の感染予防に努めましょう。

(IDWR 2013年第36号<注目すべき感染症>RSウイルス感染症)

2013年第42週 RSウイルス感染症発生状況



広島県 (1.11 人)、鳥取県 (1.95 人)、山口県 (1.83 人)、島根県 (1.17 人) など、近隣の県での定点あたり報告数が、岡山県よりも多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。

【RS ウイルス感染症とは】

RSウイルスに感染することで発症する急性呼吸器感染症です。潜伏期は2～8日、発熱、鼻汁、咳などで発症し、軽度の感冒様症状から、重症の肺炎や細気管支炎などの下気道疾患を発症する場合までさまざまです。症状は7～12日で軽快し、成人では通常、感冒様症状を起こすのみですが、初感染の場合は下気道疾患を引き起こす危険性が高くなります。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができず、乳幼児期（特に生後6ヶ月以内）に感染すると、高い確率で肺炎や細気管支炎などの重篤な症状を引き起こします。乳幼児において、肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%はこのウイルスによるものと報告されています。また、低出生体重児や、心肺系の基礎疾患、免疫不全等がある場合には重症化のリスクが高くなります。重篤な合併症として、無呼吸発作、急性脳炎等があり、1歳以下の乳児では、中耳炎の合併も多く報告されています。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【治療・予防】

特効薬はなく、治療は対症療法が中心です。感染力が強く、主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、飛沫に汚染された手指や物品からの接触感染です。学校や保育施設などでは集団発生することもあります。RSウイルスは眼や鼻からも感染すると考えられているため、体調の変化に応じてマスクを着用する等、咳エチケットを心がけましょう。また、年長児や大人では感染に気づかず子供にうつしてしまうこともあります。咳等の呼吸器症状がある年長児や大人は、可能な限り1歳以下の小児との接触を避けることが、乳幼児の感染予防に繋がります。1歳以下の小児と日常的に接する方は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用しましょう。小児が日常的に触れるおもちゃ、手すりなどを、こまめにアルコールや塩素系消毒剤等で消毒し、流水・石けんによる手洗い・アルコール製剤による手指の消毒等を行うことが、接触感染の予防となります。

[\(RSウイルス感染症に関するQ&A \(平成25年9月25日\)\) \(厚生労働省\)](#)

季節の変わり目です。体調に注意しましょう。

1月に入り、気温の変動が大きくなってきています。急な冷え込みなどにより、体調を崩しやすい時期ですので、お子さんの体調の変化に注意し、体調が悪いときには早めに医療機関を受診しましょう。

咳やくしゃみなど体調の変化を感じたら、早めにマスクを着用し咳エチケットを心がけるとともに、手洗い・うがい等に努めましょう。

保健所別報告患者数 2013年 43週 (2013/10/21～2013/10/27)

2013年10月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	38	0.70	15	1.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	21	3.50
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	27	1.93	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	247	4.57	69	4.93	61	5.55	51	5.10	11	1.57	24	6.00	6	3.00	25	4.17
水痘	20	0.37	9	0.64	2	0.18	7	0.70	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
手足口病	35	0.65	18	1.29	5	0.45	3	0.30	9	1.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	12	0.22	9	0.64	-	-	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	0.13	3	0.21	2	0.18	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	4	0.80	2	0.50	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 43週 (2013/10/21～2013/10/27)

2013年10月30日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	1	0.08	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	0.07	1	0.07	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	27	1.93	5	0.45	1	0.10	-	-	-	-	-	-	2	0.33
感染性胃腸炎	247	4.57	69	4.93	61	5.55	51	5.10	11	1.57	24	6.00	6	3.00	25	4.17
水痘	20	0.37	9	0.64	2	0.18	7	0.70	1	0.14	-	-	1	0.50	-	-
手足口病	35	0.65	18	1.29	5	0.45	3	0.30	9	1.29	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	0.13	3	0.21	2	0.18	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	0.58	4	0.80	2	0.50	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第43週 2013/10/21~2013/10/27)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

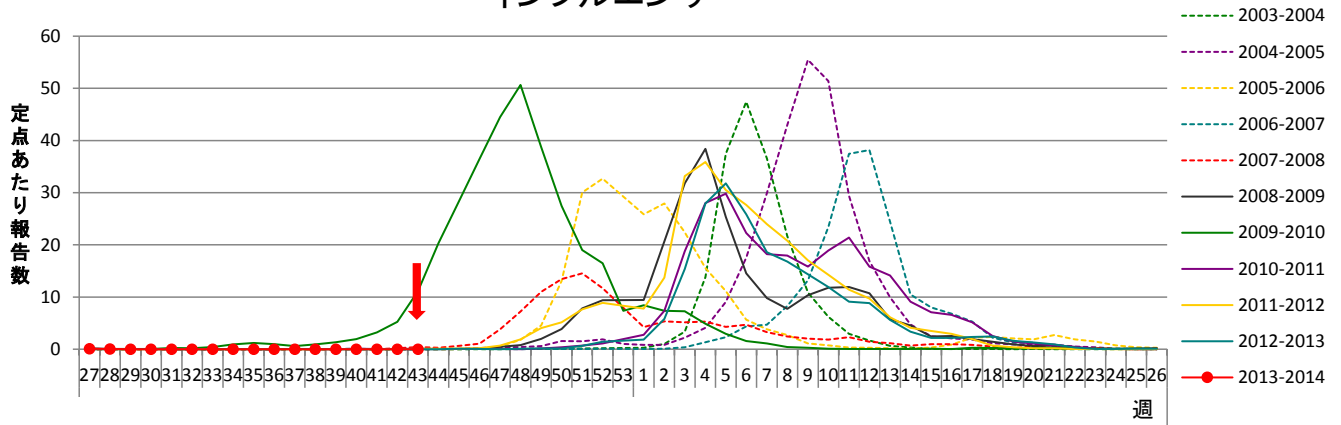
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	38	3	7	16	9	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	4	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	-	-	1	2	2	4	4	4	5	2	2	7	-	2
感染性胃腸炎	247	5	21	44	22	20	26	16	8	5	6	9	23	9	33
水痘	20	2	-	1	5	2	3	5	-	-	-	-	1	-	1
手足口病	35	2	3	7	8	9	2	-	2	-	1	-	-	1	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	12	-	4	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	7	-	-	-	-	1	-	1	1	1	2	-	-	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	1	-	-	-

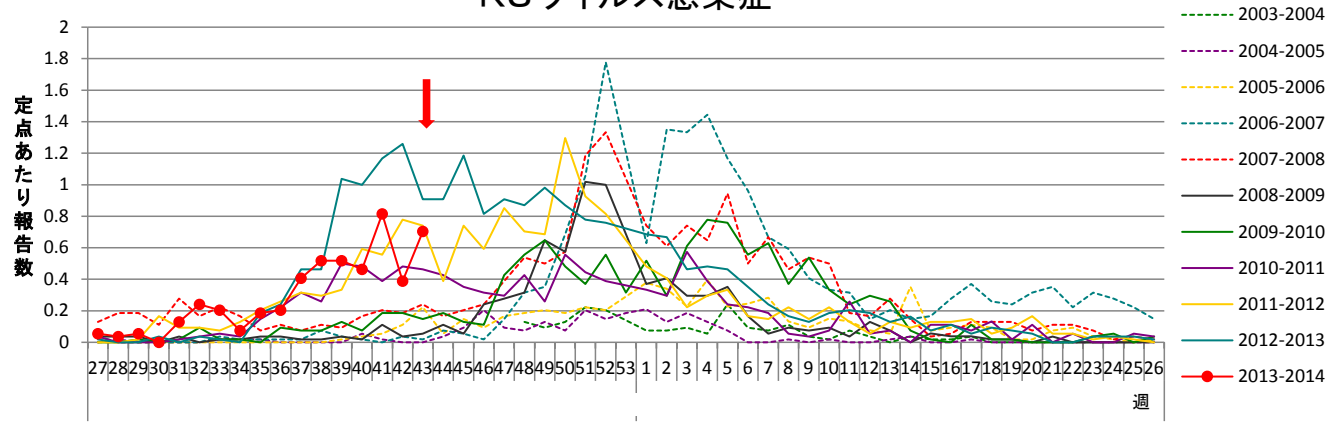
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	4	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

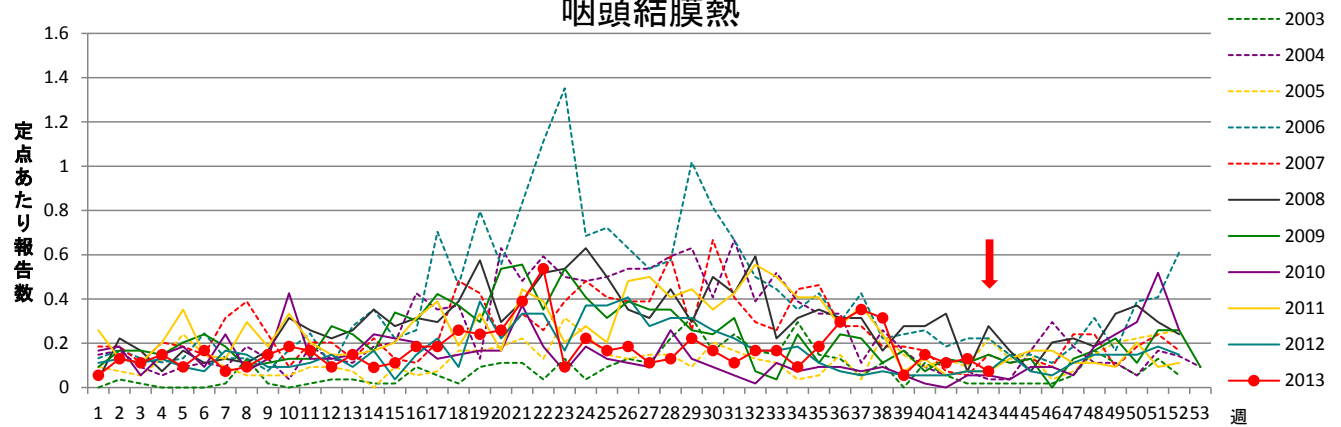
インフルエンザ



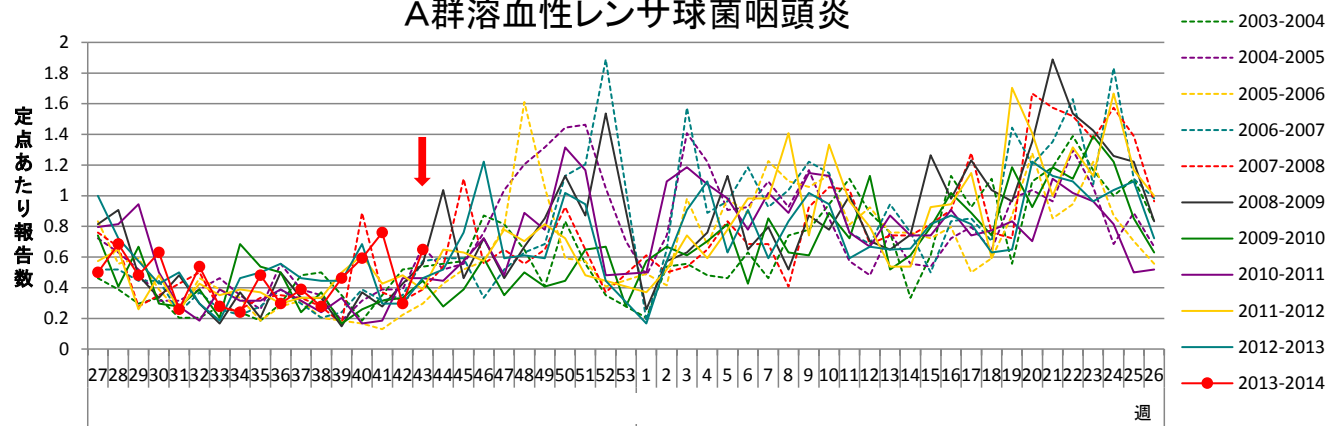
RSウイルス感染症



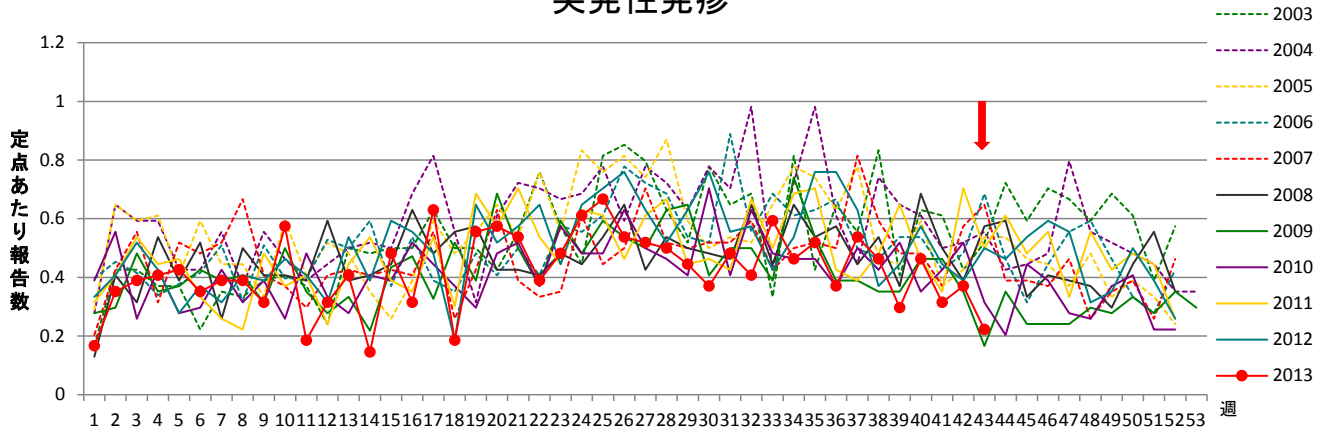
咽頭結膜熱



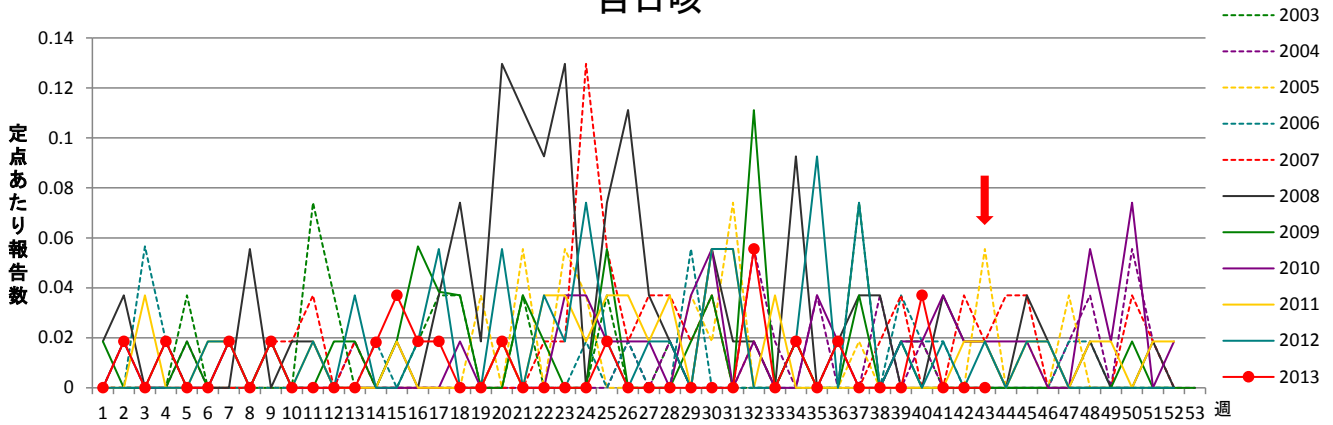
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



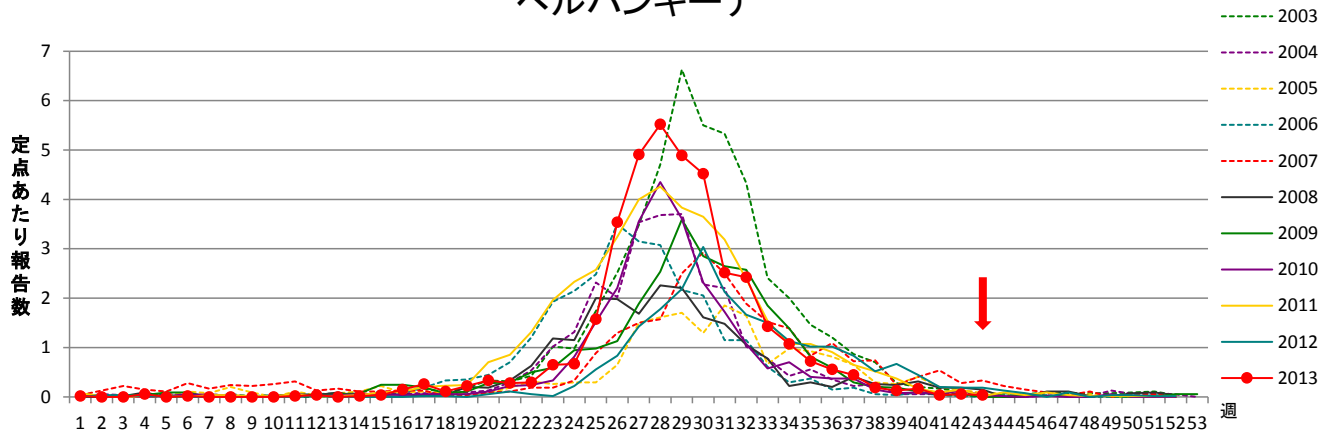
突発性発疹



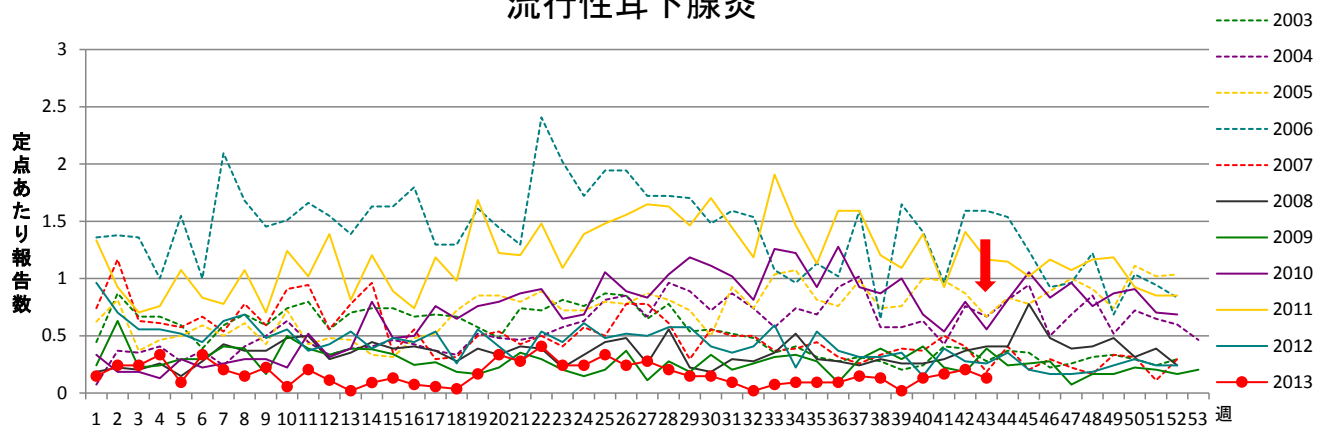
百日咳



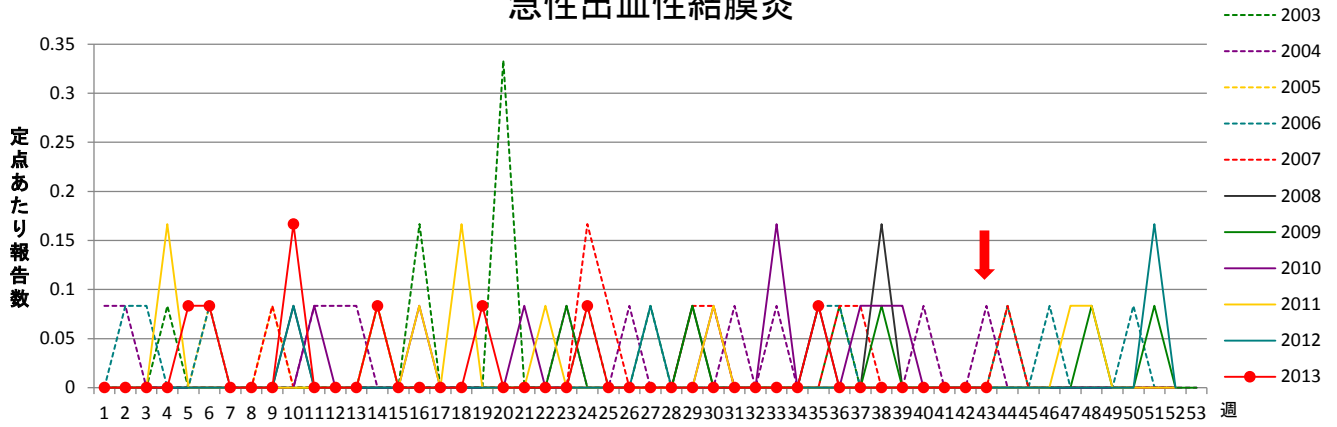
ヘルパンギーナ



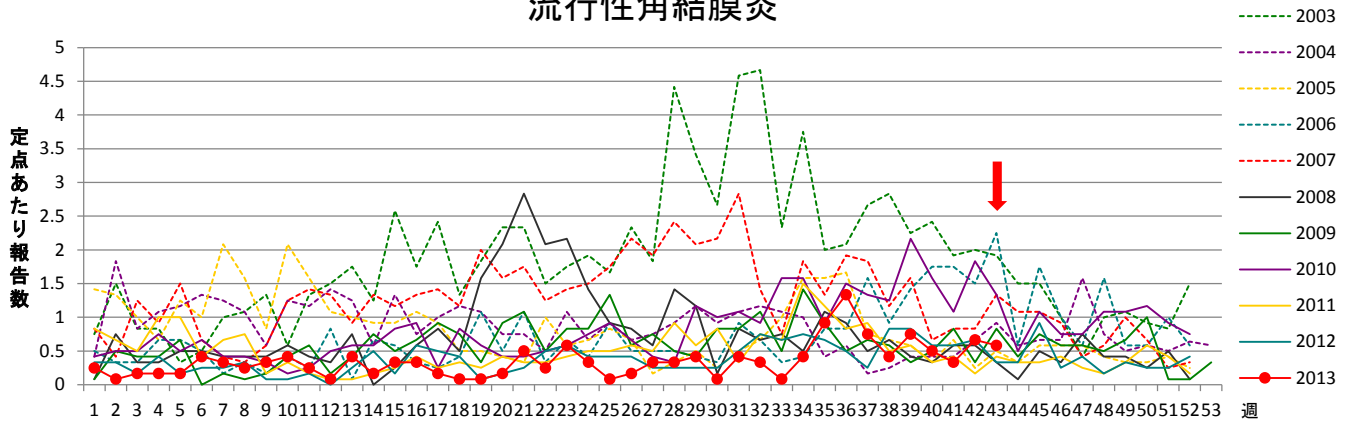
流行性耳下腺炎



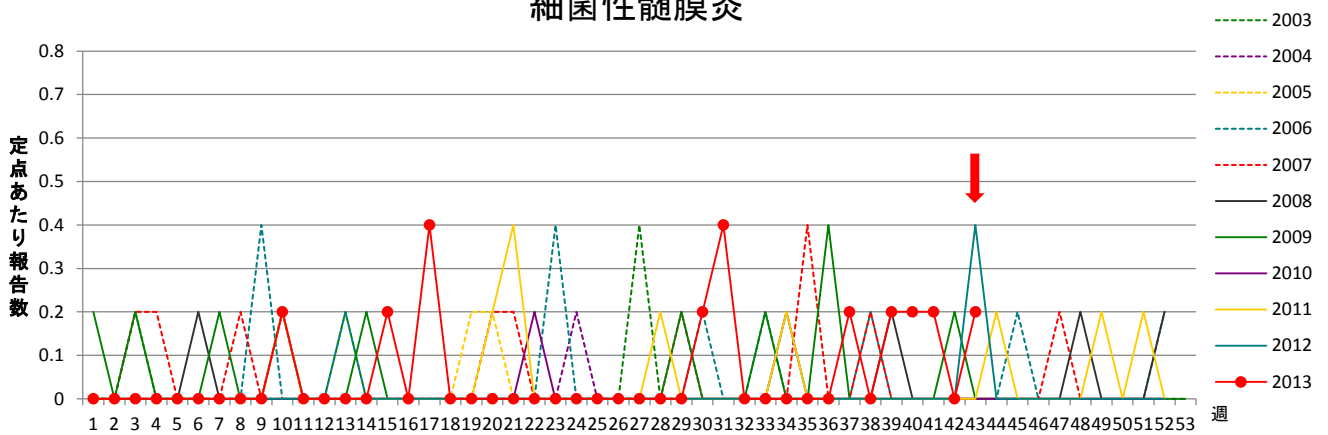
急性出血性結膜炎



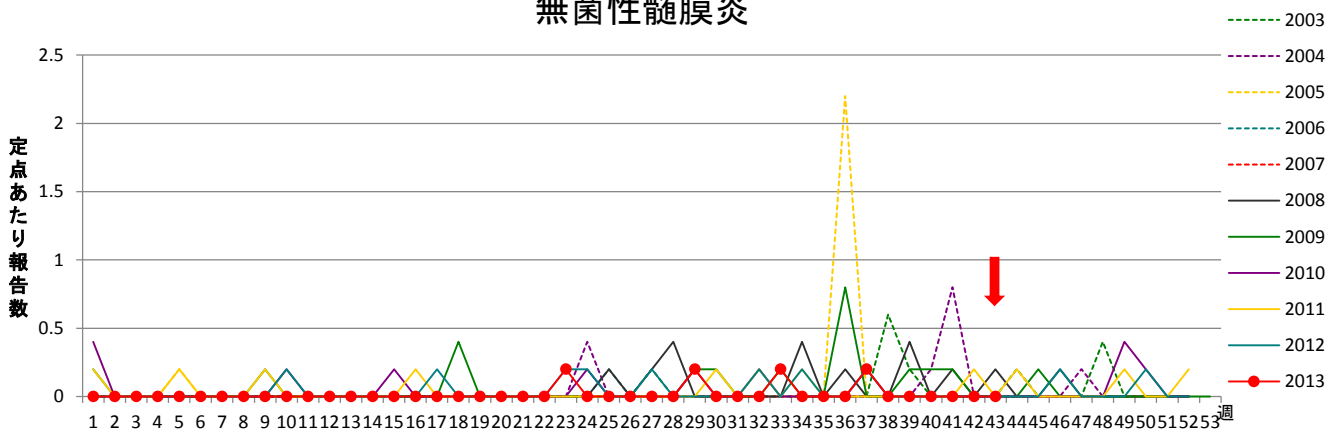
流行性角結膜炎



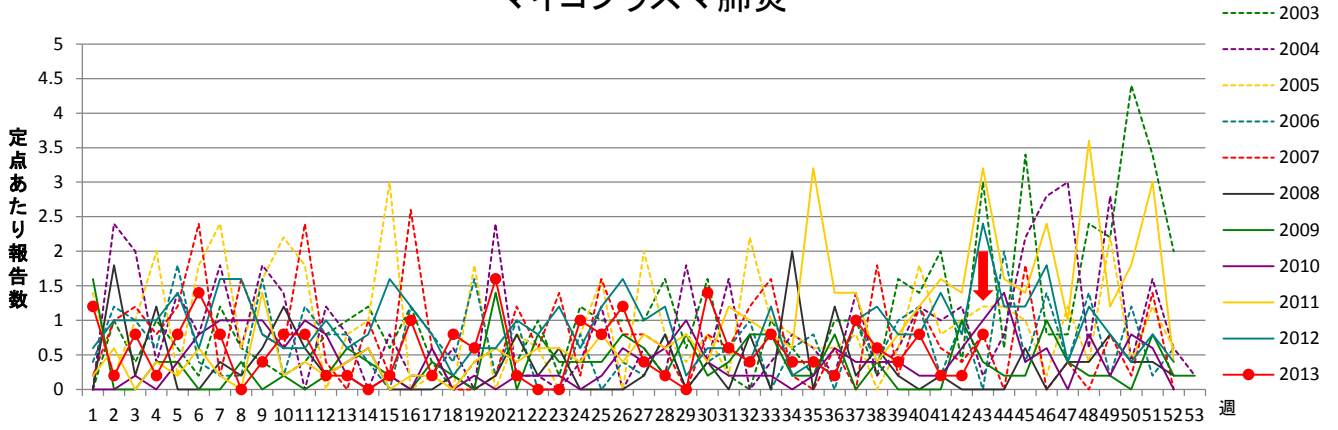
細菌性髄膜炎



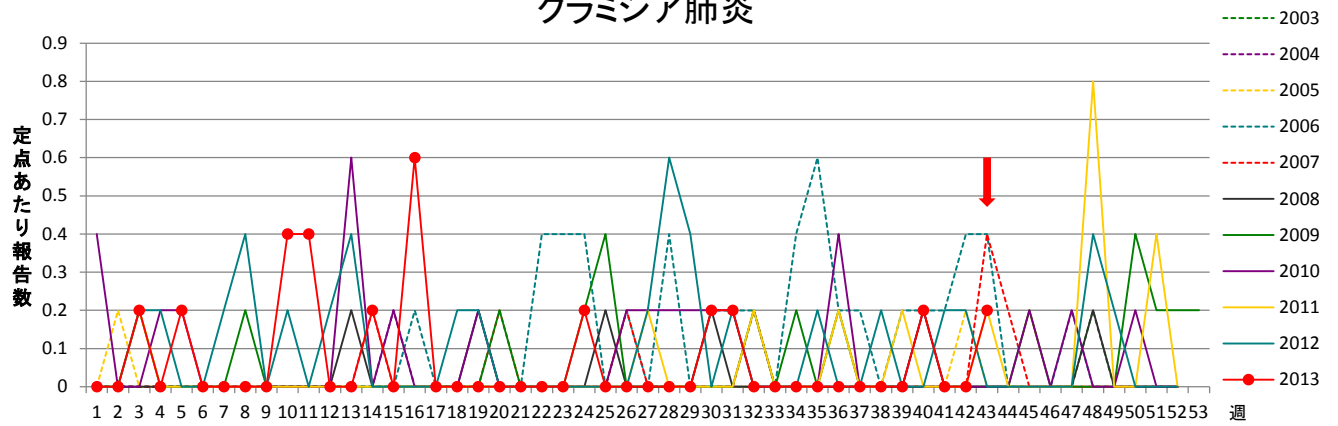
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



ロタウイルス胃腸炎

